

UN Women Statement

科学分野の国際女性・女兒デー（2月11日）によせたUN Women事務局長ブムジレ・ムランボ・ヌクカ氏のメッセージ

隠れた数字を明らかに：成功物語こそ少女のSTEM（科学、技術、工学、数学）キャリアを後押しする

何が少女を自分は少年より知性や能力で劣っていると思わせるのでしょうか。そしてこのような子供たちが科学、技術、工学、数学（STEM）のような「硬い／ソフトな」科目に出会った時どんなことが起こるのでしょうか。最近の調査「知的能力のジェンダーステレオタイプは幼少の頃に現れて、子供の興味に影響を与える」によると、6歳までには、少女は少年より自分の性を頭脳明晰だと言ったり、「とても利口な子供」とレッテルを張られたりする傾向が少ないことがわかります。少年、少女は家庭に始まり、学校、その後の人生を通して学んでいく言い伝えやステレオタイプによって思考や自意識の発達に大きな影響を受けること、そしてこれらの広告や映画、本、ニュースなどの中で見る女性のイメージや役割によってさらに強められていくことを調査は繰り返し証明しています。

では、どうやってこれを変えていけるでしょう。将来の新しい労働市場で成功していくには少女たちは何を学ぶべきでしょう。答えは単にSTEMの授業を増やしたり、教え方を改善するなどではすみません。まずこのような未来では少女は少年と平等であることを学ばねばなりません。STEMで少女が直面する主な障害は、これらの科目やキャリアでは少年が少女より優れているというステレオタイプが、その誕生以来継続してきたことです。

子供が学校に入学し、勉強を続けることを確保するだけでなく、何を学んでいるかに注意を向けなくてはなりません。将来の職業が変化しているということは、学校で子供たちが学ぶ分野に、第4次産業革命を見据えて「ニューカラージョブ（ホワイト、ブルーカラーに加えた第3のカテゴリー、技術と高等教育で学習する知識を結び付けた職業）」に対応できるような科目を加えなくてはならないということです。今日存在しない仕事で、例えばグリーンエコノミー、ロボット、人工知能、バイオテクノロジー、ゲノムなどの分野で、これからの20年以内に一般的になるかもしれません。



(Photo: UN Women/Gustavo Stephan)

「少女の意識調査2016」(Girls' Attitudes Survey) によれば英国の7-10歳の少女のうち、エンジニアや科学者のキャリアを選ぶと言ったのは10人のうちの1人にも達しませんでした。この偏見を捨て去ったり、ステレオタイプを変えたりするのは簡単ではありません。でも少年、少女が将来のジョブ市場で対等に競い合うようにするにはこれを避けては通れません。同時にこれに対応したすぐ使えるスキルを教える実用プログラムも実施されなくてはなりません。

UN Womenはデジタルのジェンダー格差をなくすために世界中のパートナーと協働しています。例えばモルドバの「少女のIT教育」(UN Womenのジョイントプログラム)は少女にデジタル、IT、起業スキルを教え、特にビデオを使って前向きなロールモデルを広めています。同様にケニアと南アフリカでは、女性・女兒のためのウェブ教室モジラクラブが20か所で基本的なコーディングやデジタルを理解するためのスキルを教えています。

我々は子供たちが遊び、学び、育っていくエコシステムに根づくステレオタイプを計画的かつ緊急に取り去っていかなくてはなりません。学校、家庭、職場で、そして日常交わされる会話を通して、少女が科学分野で伸びていけるような世界がどのようなものであるかを考えていかなくてはなりません。そうすれば少女たちの成功は彼女たちの能力に比例するものとなるのです。

UN WOMEN WEEKLY NEWS UPDATE
2017.2.13より

翻訳：本田敏江(国連ウィメン日本協会理事)
監修：目黒依子(国連ウィメン日本協会副理事長)

テーマ「女性と仕事」について

2017年の国際女性デーのテーマは「Women in the Changing World of Work: Planet 50:50 by 2030」(変化する仕事の世界における女性たち: 2030年までにプラネット50:50を実現しよう)でした。今号では「女性と仕事」をテーマに女性のエンパワーメントの目標に向かって、仕事の世界における女性たちの潜在能力をフルに解放する取り組みはどう進められるべきか、その論議の一端をお伝えしたいと思います。

世界における「女性としごと」

理事 田中由美子

過去20年間に開発途上国では女性の教育レベルが飛躍的に向上しましたが、それは雇用機会や収入の増加に必ずしも繋がっていません。国際労働機関(ILO)は、2016年版『女性としごと』を発表し、先進国・途上国を問わず、無償の家事やケア労働の負荷、及びジェンダーに基づく多様な差別により、女性は労働条件の悪い低賃金労働に就く傾向があると指摘しています。女性が無償労働に費やす時間は男性の2.5倍ですが、これ以上の格差がある国もたくさんあります。また女性労働者の28%しか14週間の有給産前・産後休暇を取得できておらず、「出産・育児は女性に対するペナルティ(罰則)」となっています。失業率も女性の方が高く、職種の差別化も拡大し、特に新興工業国では女性の先進技術関連の就業者は男性の半分程度しかありません。男女の賃金格差は世界平均で23%ですが、その格差を縮めるためには、あと70年はかかるだろうと言われています。これらは女性の社会保障へのアクセスや老後の生活や健康にも大きな負の影響を与えています。

2015年国連総会で採択されたアジェンダ2030の持続可能な開発目標(SDGs)は、ビジョンとして、「全ての国が持続的で、包摂的で、持続可能な経済成長と働きがいのある人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)を享受できる世界を目指す」、「若者の雇用促進、女性の経済的能力強化の促進を通じダイナミックかつ持続可能な革新、人間中心の経済構築を目指す」と謳っています。さらに、2030年までに若者や障害者を含むすべての男女の同一労働同一賃金を達成するとしています(ゴール8)。ジェンダー平等を目指すゴール5では、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価し、経済分野でのあらゆるレベルの意思決定において女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保することを明記しています。



(Photo: UN Women/Christopher Herwig)

UN Womenは、SDGsの目標達成を積極的に推進し、2030年までにプラネット50:50が実現することを目指し、女性の経済的エンパワーメントのために必要なあらゆる支援を展開しています。具体的な取り組みについては、国連ウィメン日本協会のWebニュースをぜひご参照ください。(http://www.unwomen-nc.jp/4536 及び http://www.unwomen-nc.jp/4454 など)。(シンポジウムのサイト: http://jwndrr.org/allnews/report/1295/)

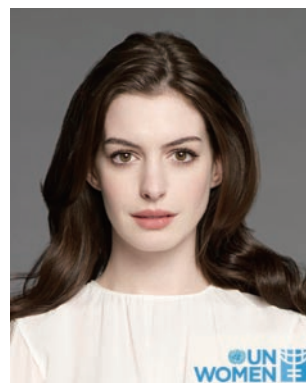
UN Women親善大使 アン・ハサウェイ

「有給育児休業は、自らの役割と時間の使い方を決定する自由をもたらします」

2016年3月下旬、私は初めて親になりました。多くの親と同じように、どうしたら仕事と、親という新しい役割のバランスを取っていけるか悩んだ時、アメリカ合衆国の出産や育児休業政策に関する統計を思い出しました。現在アメリカ合衆国の女性には、12週間の無給の休業が認められており、男性には、何も認められていません。しかも、経済的余裕のある女性でも、多くが休業しません。休業取得は「母親のペナルティ(出産・育児による不利益)」、すなわち仕事熱心でないと見なされて昇進などキャリア

アップの機会を見送られることを意味するからです。有給育児休業の課題を深く考えれば考えるほど、女性の完全な平等とエンパワーメントに対する根強い障壁と、男性の家庭内におけるケア役割の再定義、それを恥ずかしいと考える風潮を覆す必要性が、はっきりと見えてきました。言い換えれば、女性を社会的に自由にするためには、男性も自由にしなければいけないのです。

有給育児休業とは、単に仕事を休むことではありません。自らの役割と時間の使い方を決定する自由が与えられ、新しいポジティブな行動サイクルを作り出します。従業員に有給育児休業を付与した企業からは、離職率の低減や、常習的な欠勤の減少、トレーニング費用の削減、生産性とモラルの向上が報告されています。私はUN Womenと共に、世界中で国、企業、公共機関に有給育児休業の支援者(チャンピオン)となるよう行動を呼びかけます。親になりたいという理由で男女ともに経済的に不当な扱いを受けることのない世界の実現に向けて、まずは模範を示しましょう。



子どもがいてもいなくても、欲しくても欲しくなくても、ジェンダーに基づく差別のない政策が実現した社会に生きることは、皆にとって利益になるのです。有給育児休業は、単に親たちに子どもと過ごす時間をより多く与えるだけではありません。それは子どもが目にする物語を変え、将来の可能性を変えるでしょう。

スピーチ映像(日本語字幕付き):

https://www.facebook.com/unwomenjapan/?ref=aymt_homepage_panel

2017年3月8日国際女性デー基調演説(翻訳: UN Women 日本事務所)より抜粋

「女性と仕事」についての応援メッセージ キャリアアップは人生の自己実現

企業の経営戦略としてのダイバーシティ推進を支援するために、2007年にNPO法人J-Winを立ち上げました。この10年を振り返ると、女性活躍推進を政府が後押しし、各企業の制度も整うなど、世の中も大きく変化しています。しかし各国の男女格差を示すジェンダーギャップ指数においては、2016年の順位で日本は111位と、未だに低い評価です。特に、男女の賃金格差に課題があり、これは企業の上位管理職に女性が少ないことが要因とみられています。では日本で女性のキャリアアップがなかなか進まないのは、どのような背景があるのでしょうか。育児や長時間労働などの問題もありますが、私が最も大きな課題と感じているのは、女性の意識の問題です。十分な実力があるにもかかわらず、「管理職になる自信がない」と遠慮する女性が少なくありません。こうした女性たちが意識を変えキャリアアップしていくことが、企業の競争力を高める原動力になることに気付いていただきたいのです。管理職になると多くの部下を動かし、一人ではできないような仕事をチームプレーで実現することができます。職位が上がることで見える世界が広がり、組織や世の中の仕組みもわかってくるでしょう。以前J-Winで行ったアンケートで、非管理職の女性たちに対して「管理職なることに抵抗があるか」と聞いたところ、53%が「抵抗がある」と答えましたが、実際に昇進した後には88%が「管理職になってよかった」と答えています。視座が上がった、やりがいが増えた、発言権が増えて仕事がしやすくなったなど、自分自身の成長につながったと言っています。自分のキャリアに対して明確な目標を持ち、巡ってきたチャンスは躊躇せず生かしてください。仕事に同じ時間を費やすなら、達成感のある仕事を目指した方が、より楽しい人生を生きられるのではないのでしょうか。キャリアアップは人生における自己実現です。ぜひこれからは多くの日本の女性たちもチャレンジして欲しいと願っています。

NPO法人J-Win 理事長
内永ゆか子



国連ウィメン日本協会のミッション

このたび日本協会のミッションが新たに制定されました。協会が社会に貢献していく志を示すものです。日本協会について、広く社会にご理解、ご支援をいただく一助にしたいと考えます。今後の日本協会のホームページ、各種印刷物、そのほかの広報物などを通して、このミッションを伝え、一層、日本協会の発展的な活動につなげていきます。

私たちは国連 UN Womenと共に、世界の女性と少女が能力を発揮し、ひとりひとりの可能性を開き、希望の未来を手にする社会をつくります。

国連ウィメン日本協会の活動

UN Women 国内委員会会議に参加して

3月16-17日(ニューヨーク)

理事 本田敏江

ニューヨークをひどいブリザードが襲った次の日に到着して、雪で狭くなった車道の大渋滞を抜け、雪で凍り付いた歩道を何とか歩いてホテルにたどり着きました。国内委員会(NC)会議の1日目はUN Womenのコンサルタントによるファンドレイジングのトレーニング、2日目から本会議に入りました。冒頭、戦略的パートナーシップパートナーシップ部長(ジョエル・タンギ氏)よりNCからの拠出が23%も伸びたことに対してお礼の言葉がありました。新しい試みとして活動が活発で、拠出がさらに伸びる可能性があるアイスランド、フィンランド、オーストラリア各NCに現金で投資したことが報告されました。今回目新しい動きとしてはUN Womenが人道危機分野に進出していることでした。特に難民への支援が中心で、ヨーロッパのNCは独自のキャンペーンをしていることが目を引きました。もう一つは若者を取り込むという動きです。ジョエルも言及していましたし、民間部門部長代理はユース戦略について話されました。30分ほど参加されたスッカ事務局長からも若者の参加を期待する熱意が感じられました。最後はアイスランドNCより次回の国内委員会会議がレイキャビク郊外で10月24-26日まで開催されるという発表がありました。



総会報告

2017年2月25日(土)13時から14時20分、婦選会館にて2017年度総会を開催し、2016年度の事業報告・決算、2017年度事業計画・予算が承認されました。

決算報告

国連ウィメン日本協会 2016年度決算報告
(2016年1月1日～12月31日) 単位：円

一般会計

■収入の部		■支出の部	
会費収入	2,920,000	拠出金	2,686,958
事業収入	141,500	事業費	3,630,677
寄付金収入	4,482,611	管理費	1,732,972
その他資金繰入金	400,000		
受取助成金	150,000		
雑収入	497		
当期収入合計	8,094,608	合計	8,050,607

その他の資金

■収入の部		■支出の部	
利息	88	一般会計に繰出	400,000

当期収支差額	△355,911
前期繰越収支差額	8,662,206
次期繰越収支差額	8,306,295

拠出金報告

2016年度拠出金は2,686,958円となりました。ご寄付にご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。拠出金は2017年5月にUN Women本部に送金致しました。支援プロジェクトは次の通りです。

- ①ベトナム・ダナンの「女性と女兒に対する暴力のない地域づくりプロジェクト」
1,686,958円(15,040.63 ドル)
- ②女性に対する暴力撤廃国連信託基金
1,000,000円(8,915.83 ドル)

2017年度 協力協定団体ネットワーク会議報告

副理事長 三隅佳子

2017年度の協力協定団体ネットワーク会議は2月25日(土)総会終了後14時30分から16時30分まで婦選会館の多目的ホールで開催されました。出席者は北九州2名、大阪1名、多摩2名、よこはま4名、東京2名、さくら2名と理事長他理事、アドバイザー等計27名でした。

理事長の、協力協定団体は日本協会の力強いパートナーである、との挨拶に始まり、続いて各団体から、今年のテーマ「募金・広報活動の実態と課題について」報告がありました。

- ・北九州・・・(公財)アジア女性交流・研究フォーラムに事務局を置いているので、ムーブの事業の中、また市の広報に掲載している。募金については今後の課題。
- ・さくら・・・レソト王国との交流。東日本大震災被害地のため記念樹を東北に植えた。
- ・大阪・・・男女いきいき財団の協力を得て、中央館に事務局を置き広報している。「がんばろう大阪」の余剰金を寄付することが出来た。今年もクオレ大阪と協働する。
- ・多摩・・・イベント開催時に募金。支援したモンゴル女性は自立。グッズは依頼している。
- ・よこはま・・・年3回会報発行。HPをリニューアル。地域のイベントに参加しPR。昨年大学との連携ができ、スポットボランティア制度を始めた。効果が出ている



- ・東京・・・HPやニュースレターで広報。ロゴ入り絵葉書を作成、販売。若い人のツールに添う観点からフェースブックで宣伝。チャリティーコンサートも実施した。

その後、質疑、意見交換を行いました。(多くの質問からのピックアップ)

Q：よこはまのスポットボランティア制度とは？

A：いきなり会員になるのではなく、一回でも「お試し」でボランティアが出来る制度。

Q：会員の確保(特に若い人)について

A：ホームページやフェイスブックでアピールする。(東京)

フェスタの時ブースをおきPRする等。(大阪)

Q：マンスリードネーションとは？

A：ホームページを利用。千円、二千円、三千円、五千円等選択して毎月募金するもの。(事務局より説明)

最後に来年度も今年同様に総会後の開催が良いとの結論で閉会しました。

会員団体の紹介

正会員団体 (一社) 大学女性協会

会長 鷺見八重子

一般社団法人大学女性協会(JAUW)は1946年に設立され、昨秋2016年11月、創立70周年を迎えました。男女平等教育へ向かったこの時期に、初代会長藤田たき(津田塾大学学長1962-73)らは、当時進駐軍の婦人教育担当者であったドクター・ルル・ホームズの指導と支援を得、「女子専門学校の即時大学への昇格」の推進を目指して出発しました。1947年度の第1回通常総会時の会員数は788名であり、この会員数を見ると当時の女性たちがいかに向学心に燃え、「高等教育を受けた責任を果し、社会に貢献する任務」を自覚していたかがうかがえます。

JAUWは、1954年には念願の国際女性大学連盟に加盟し、世界の大卒女性と歩調を合わせて三本の柱「女性の高等教育の促進、女性の地位向上、国際協力と世界平和」を目標にかかげて活動してきました。

創立当初から綿々と引き継がれている奨学金事業は、一般奨学に加えて社会福祉、安井医学、国際奨学、そして守田科学研究奨励賞があり、優秀な学生・研究者の育成に寄与できることは会員の喜びとするところです。調査研究・提言活動としては、文部科学省の国庫補助事業として1981年から2004年まで毎年セミナーを開催し、その後はJAUW独自の事業として全国セミナーとシンポジウムを隔年で行っています。現在は改めて「女性の自立」のテーマに取り組み、次世代のリーダーシップ養成に力を注いでいます。これらの事業報告書および会報は1949年発行の1号からアーカイブとして、JAUWのホームページに公開しています。(http://jauw.org/)

2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標」SDGsの目標5「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」は、私たちのテーマ「女性の自立とリーダーシップ」と深く関わっています。国連ウィメン日本協会や他団体とも連携し、勇気と希望をもって活動していきたいと願っております。

協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

2月に2017年度における国連ウィメン日本協会北九州の事業計画等が承認されました。国連ウィメン日本協会の協定協力団体として、世界の女性の抱えている問題やUN Womenの活動意義を理解していただくため、7月に北九州市立男女共同参画センター・ムーブにおいて「男女共同参画と防災・減災」をテーマとした講演会開催やチャリティバザーを実施する運びになりました。また、会報の発行やイベントなどで広報・啓発活動を実施していきます。

今後関係団体等とのネットワークを活用し積極的な情報収集に努め、UN Womenの活動意義、国際協力、男女共同参画社会の形成等について理解の促進を図るとともに、会員相互の交流を深めていきたいと考えています。

事務局 柴田雄一郎



国連ウィメン日本協会 大阪

4月15日(土)、クレオ大阪中央にて、国連ウィメン日本協会大阪の総会を開催し、2016年度事業報告及び決算報告、2017年度事業計画及び予算が承認されました。総会では会員拡大に向けた広報のあり方や、今後のイベントについて、会員同士の活発な意見交換が行われました。総会後には、セミナー『多様な人を巻き込み、活動を盛り上げるコツ～ポストンNPOの事例に学ぶ』(スピーカー：事務局 岸上真巳)を開催し、多くの方にご参加いただきました。セミナーでは、マサチューセッツ州ボストン市の非営利団体の事例から、多様な女性が様々な形で社会貢献活動に関わる具体的な事例について学ぶとともに、これからの非営利組織や女性のリーダーシップについて考える機会となりました。

今年度は6月17日(土)14時よりクレオ大阪中央にて、NPO法人ウィメンズアイ 代表理事の石本めぐみさんをお招きして、講演会を実施します(参加無料、定員80名)。東北3県(宮城、岩手、福島)で女

性リーダーの育成や女性支援の活動を続ける石本さんのお話を大阪で伺える大変貴重な機会です。ぜひご来場ください。



国連ウィメン日本協会 堺

正会員の堺市女性団体協議会の第68回定期総会において、国連ウィメン日本協会堺との共催で、「JKビジネスの実際～その背景と解決に向けて～」をテーマに講演会を開催。堺市は、2013年12月に世界第17番目(先進国で二番目国内初)としてUN Womenセーフ・シティーズ・グローバル・イニシアティブへの参加を表明、公的空間における女性と女兒に対する性暴力などを防止する有用なモデルとして「堺セーフシティ・プログラム」を実施している。講師の「女子高校生サポートセンターの仁藤夢乃さん」は、困難をかかえる少女たちが暴力を受けたり搾取労働に行きつかなくてもよい社会の構築について講演。UN Women堺では、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向け、セーフシティプログラムの推進に取り組みます。



このたび国連ウィメン日本協会のロゴが変わりました。それに伴い、協力協定団体のロゴも以下になります。



国連ウィメン日本協会 多摩

総会后、ピアノ、ベース、篠笛のコンサートを楽しみました。新会員が一人増えました。大きな拍手で迎えました。しかし、会員の高齢化による会員の減少は今後の不安につながります。

イベントの度、グッズを購入してくださったり、寄付にも快く応じてくださっても、会員になることは断られます。国内でもいろいろな災害が起こり、私たちの活動が遠くて見えにくいことも一因かと役員会で話しています。今年もイベントを計画しています。応援してくださる方々も増えています。

この活動の重要性を理解していただき、支援の輪をどう広げるか、今、曲がり角にきているように思います。でも歩みをとめてはいけない活動です。

小川裕未

国連ウィメン日本協会 よこはま

2月11日、総会と親睦会（バザー＆ランチ、ベルリンでの国内委員会会議報告）が開かれ、樽谷会長4年目の体制がスタートしました。活動体験から入会に繋げるスポットボランティアの仕組みも順調に動き出し、若い世代へのアピールとして学生会員作成のQRコード（HPへつながる）をショップのレジ袋に貼り付けました。

3月5日には10回目となる国際女性デーイベントで、再び「災害と女性」をテーマにしました。東日本大震災の被災地から宮城ジョネット代表草野祐子さんと女川コミュニティスペースうみねこ代表八木純子さんを招いて、女性の力で未来を拓く話を伺い産地品の販売もしました。6年を経て進んできたこと、まだ取り組んでいない事、学んできたこと、そして忘れてはいけないこと、体験者の話は重みがありました。女性たちが力を出したり意識を変えたりすることで、前へ進む力が格段にアップすることを地域の中で証明され、私達の教訓になりました。10回続いた国際女性デーイベント。補助金が出た年以外は持ち出しの事業ですが、これからもUN Womenの広報をしながらよこはまの事業の柱の一つとして会員団結して今後も続けていく予定です。

副会長（総務部会長） 竹内美千代



国連ウィメン日本協会 東京

2月9日津田塾大学同窓会会議室にて2017年度国連ウィメン日本協会東京の定例総会を開催し、昨年度の事業報告及び決算、本年度の事業案及び予算案が承認されました。総会では、会員であることを楽しめる工夫も活動の中に盛り込みたい等の活発な意見交換が行われました。総会後の記念講演は、臨床心理学がご専門の布柴靖枝先生に、政府代表顧問として国連総会第3委員会に参加の折のお話を伺いました。「人の一生すべてが私の研究対象です」と講演の冒頭に云われ、人間への温かな視点を随所に感じました。7月19日には、北とびあつつじホール（14時開演）で、テノールの友清和親氏の「初夏のコンサート」を開催します。是非お出かけください。



国連ウィメン日本協会 さくら

国際女性デーの3月8日に例年通り行事を企画。勉強会を参議院議員会館で開催。日本女性の権解放の原点である4月10日を迎えるにあたって、「1946.4.10-初の婦人参政権行使と日本女性自立への出発」を教材に、編纂した大槻会長・調査に参加した先輩方と一緒に勉強会を開催。ベアテ・シロタ・ゴードン女史の果たした役割、歴史と背景を学びました。この本に寄稿して下さった国際女性の地位協会山下泰子会長のクオータ制について、全国ミニ出前読み合わせ講座も18年を迎えています。時の流れに沿って持続する事の意義を確かめあう事が出来ました。更に深く学び継続する事の大切さを誓い合いました。点から線へ、また面に広がっていくように、先輩から後輩が教わりながら手を繋いで共に行動して参ります。



事務局より

■マンスリー寄付のお願い(個人の方のご寄付)

個人の方のご寄付では、インターネットを通じて、毎月定額を継続しての寄付(マンスリー寄付)ができます。一回手続きをいただければ、毎月定額を継続して寄付していただくことができる仕組みです。

金額は、1,000円/月、2,000円/月、3,000円/月、5,000円/月の4つのコースから選ぶことができます。国連ウィメン日本協会ホームページの「今すぐ寄付」からアクセスをお願いします。

■寄付者一覧(前回掲載以降2017.5.31現在)

国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協会さくら 鈴木登美子 国連ウィメン日本協会北九州 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会堺 北口明里 国連ウィメン日本協会大阪 槇山敦久・幸恵 吉良彩希 小林慶彦 佐藤想子 鷺見八重子 橋本ヒロ子 原庸一朗 藤原康洋 ブックオフコーポレーション(株) 本田敏江 上里町女性会議 高屋淳彦 池田路子 彩歩の会 衛藤栄津子 戎井会計コンサルティング戎井真理 群馬婦友会 北井久美子 清水あつ子 全国友の会 国際ソロプチミスト京都 酒井真喜子 大阪Iゾントクラブ 榎本和 岡島敦子 石田将吾 岩城淳子 澤田直幸 資生堂株式会社 出口律子 簗内麻貴 ビューティショップK 本田均平 長野麗子

■ブックオフ宅本便寄付(前回掲載以降2017.5.31現在)

鈴木登美子 本川清治 浜下洋司 井上雪子 国連ウィメン日本協会よこはま 吉本康二郎 大阪男女いきいき財団 檜山むつみ 釜田敏子 岩城淳子 田中悦子 伊東みさき 杉本浩子 武藤しげみ 奥井小枝子 東金久美子 武藤かよ子 豊島香里 三澤裕美 小野寺智恵子 和田好美 鈴木浩子 水口海 伊藤美晴 ビザワールド ワイドジャパン株式会社 石川佳代 佐藤恵 雲丹亀浩子 矢部万紀子 豊国和代 新井真美 瓜生佳代 清水あつ子 小林千佳子

■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

■正会員団体18団体(前回掲載以降2017.5.31現在)

〈団体〉(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO 法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 全国友の会 国連ウィメン日本協会堺 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会よこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会 国際ゾント26地区 (一社)大学女性協会 (公財)イオン1%クラブ 〈企業〉(株)高島屋 日本たばこ産業(株)

■正会員個人37名(前回掲載以降2017.5.31現在)

■賛助会員団体14団体(前回掲載以降2017.5.31現在)

〈団体〉久留米市男女平等推進センター (一社)国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 NPO 法人トルコ文化交流会 国際ゾント姫路ゾントクラブ 〈企業〉(株)グッドバンカー (株)電通 (株)リコー (株)フジテレビジョン (株)クロスメディア・ランゲージ

■賛助会員個人140名(前回掲載以降2017.5.31現在)

新規入会：設楽典子 堀陽子 長京子 阿部晴子 澤田直幸 根本一也

■シンポジウム予告

日時：12月2日(土)午後 会場：津田塾大学(千駄ヶ谷)
タイトル：AI時代 女性・少女が未来を拓く—ステレオタイプの殻を破ろう

井上智洋氏(駒澤大学准教授)による基調講演、パネルディスカッションを予定。

パネリスト：国谷裕子氏(ニュースキャスター)、萱野稔人氏(津田塾大学教授)、井上智洋氏 他

詳細が決まり次第、チラシやホームページでお知らせいたします。

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL.FAX. 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

